

足立区立弘道小学校  
校長 関根 正弘 様

足立区立弘道小学校 開かれた学校づくり協議会  
会長 福嶋 純一

## 平成 29 年度 学校関係者評価

### 1. 自己評価書全般について

- 本年度の自己評価書から、学校では昨年度に続いて学習面、運動面等を通して、バランスよく児童の力を伸ばしていくために全校的な取り組みを進める努力をしていることが強く感じられる。この点非常に評価ができる。次年度以降も教職員・地域一体となって知・徳・体バランスよく育てていく取り組みを進めていただきたい。
- 29 年度の重点的な取り組み事項については、具体的な数値目標で表され、9 項目中すべてが「十分に達成」「おおむね達成」となっており、引き続き成果が上がっていることが分かる。
- 平成 29 年度足立区学力調査の通過率が、国語 87.7%、算数 83.1%となり、昨年度と比較して区平均値を国語は 6.9%（昨年度 5.0%）、算数は 5.5%（昨年度 1.5%）と、ともに区平均値を上回っているなど、学校の学力向上に向けた努力が確実に実を結んでいる点大変評価できる。
- 上記の学力調査において目標値に達していない児童は、国語・算数とも今年度は 9.7%（昨年度約 10%）となり、昨年度より約 0.3%減少している。目標値に達していない児童の学力向上は容易ではないが、今後も様々な場面や時間や人材を工夫して活用し、継続して取り組みを続ける必要がある。
- 小・小連携研究協議会 6 回、公開授業 45 回等を通して、授業を開いていくことによって教員の授業力向上に努めている点について評価できる。また、「東京都教育委員会接続可能な社会づくりに向けた教育推進校・全国理科教育研究協議会研究発表校」として 10 月に実施された理科・生活科の発表会には、全国から 400 名の教員が参加し、特に高い評価を得ている。次年度以降も引き続き、教員が日々子どもたちに向き合う時間を十分に確保しながら、校内研究会等を通して教員の指導力向上に努めていくことが重要と考える。
- 豊かな人間性の育成の重点目標のひとつとして、今年度から自己肯定感の醸成が取り上げられた。学校公開や公開授業を見ると、児童が友達のよさを見付けるなど、相互のよさを認め合うような場面が多く見られた。このように教科学習の中でも豊かな人間性の育成のために取り組んでいる姿が日常的に見られる。さらに、「自分にはよいところがある」と答える児童が昨年度 80.5%より増加し、92.5%になった点も大変評価できる。次年度以降も継続して取り組んでいただきたい。

### 2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

- 本校の研究主題は、「見方・考え方を働かせて資質・能力を養う理科・生活科学習」であり、学校から提示された「課題」を簡潔な言葉で表している。これは、知識や技能を育てることと同時に、思考力・判断力・表現力などの活用力を育てることの重要性を示している。今後も継続して児童の資質・能力の育成を図っていくことが大切であると考えます。

### 3. その他

- 次年度は本校の記念すべき創立 140 周年迎える。この機会を生かし、弘道小学校と弘道地域の歴史や伝統を改めて振り返り、それらのよさを再発見し、本校の児童としての誇りをもって学校生活を送ることができる児童を育てていきたい。